

# てんさい「HT43」

## 1 特性の概要

### (1) 来歴

てんさい「HT43」は、スウェーデンのマリボヒレスヘッグ種子会社が育成した二倍体単胚の一代雑種系統である。マリボヒレスヘッグ種子会社が育成した二倍体単胚雄性不稔種子親系統「HI0703×HI0819」と二倍体多胚花粉親系統「HI0505」を交配して育成した。平成27年に北海道糖業株式会社が輸入し、平成28年から令和元年に、北見農試、十勝農試、北海道てん菜協会（日甜、北糖、ホクレン）において輸入品種検定試験を、北見農試、十勝農試、中央農試において各種特性検定試験を行った。また平成29年から令和元年に、全道3か所において現地検定試験を行った。

### (2) 特性

「HT43」は「リボルタ」と比較して、根重が多く、糖量がやや多い。褐斑病抵抗性は「リボルタ」より1ランク低い“強”である。その他の耐病性はほぼ「リボルタ」並である。

調査年次	平成28～令和元年		
品種・系統名	HT43	アマホマレ (標準品種)	リボルタ (対照品種)
根重 (t/10a)	7.79 (108)	7.21 (100)	7.29 (101)
根中糖分 (%)	16.30 (95)	17.25 (100)	16.61 (96)
糖量 (kg/10a)	1,270 (102)	1,244 (100)	1,211 (97)
抽苔耐性	やや強	強	やや強
そう根病抵抗性	強	弱	強
褐斑病抵抗性	強	中	かなり強
根腐病抵抗性	やや強	弱	強
黒根病抵抗性	やや強	中	やや強

注1) 根重、根中糖分および糖量は、北見農試、十勝農試および北海道てん菜協会(3か所)ののべ20か所平均で、括弧内は「アマホマレ」に対する百分比。

2) 特性検定は抽苔耐性(北見農試、平成29、30年)、そう根病抵抗性(北見農試、平成28～令和元年)、褐斑病抵抗性(十勝農試、平成28～30年)、根腐病抵抗性(十勝農試、平成28～30年)、黒根病抵抗性(中央農試、平成28～30)の成績。

表1 褐斑病抵抗性検定試験(十勝農試)

品種 または 系統名	基準の 抵抗性	平成28年			平成29年			平成30年			累年 判定
		発病程度			発病程度			発病程度			
		8/1 9	8/24	判定	8/1 6	9/7	判定	9/13	9/25	判定	
HT43		2.69	3.71	強	1.93	2.87	強	1.59	2.69	かなり強	強
リボルタ	かなり強	2.33	3.12	かなり強	1.15	2.31	かなり強	1.36	2.56	かなり強	
スタウト	強	3.23	3.52	強	1.90	3.26	強	2.08	3.26	強	

表2 根腐病抵抗性検定試験(十勝農試)

品種 または 系統名	基準の 抵抗性	平成28年			平成29年			平成30年			累年 判定
		発病 程度	指数4以 上		発病 程度	指数4以 上		発病 程度	指数4以 上		
			割合(%)	判定		割合(%)	判定		割合(%)	判定	
HT43		2.29	0	やや強	1.4	0	やや強	1.65	3	やや強	やや強
リボルタ	強	1.14	0	強	0.60	0	強	0.46	0	強	
リーランド	中	2.97	14	中	2.55	12	中	2.95	40	中	

注1) 指数4以上割合は、調査株に占める指数4以上の株数の割合。指数4以上の株は、収穫時に圃場廃棄となる。

### (3) 長所及び短所

長所 1 根重が多く、糖量がやや多い。

短所 1 抽苔耐性が“やや強”である。

### (4) 用途

砂糖原料用

## 2 候補理由

北海道糖業株式会社のでんさい作付け地域では、多収の主力品種「アンジー」（平成26年北海道優良品種認定）が多く栽培されているが、土壌の排水性が不良であるため病害の発生しやすい圃場が多く、そのような圃場では耐病性に優れる「リボルタ」が（平成22年北海道優良品種認定）栽培されている。

「リボルタ」は、てん菜栽培において特に問題となるテンサイそう根病、テンサイ褐斑病、テンサイ根腐病、テンサイ黒根病の4病害すべてに抵抗性を持ち、上記のような病気が発生しやすい圃場で栽培されることで、てんさいの安定生産に貢献してきた。しかし、「リボルタ」は収量が主力品種「アンジー」よりも劣るため、「リボルタ」並の耐病性を持ち収量性を向上させた品種が必要とされている。

「HT43」は、「リボルタ」と同様の4病害抵抗性を持つ。褐斑病抵抗性は、「リボルタ」の“かなり強”に対して“強”ではあるが、“強”の中では発病程度が低い（表1）。また、根腐病抵抗性は、「リボルタ」が“強”に対して“やや強”であるが、生産物廃棄の対象となる指数4以上の割合は「リボルタ」並であり、「リボルタ」同様に根腐病対策として導入できると考えられる。そう根病抵抗性、黒根病抵抗性については「リボルタ」並である。さらに、根重、糖量が向上しており、収量性が「リボルタ」に優る。

以上から、「HT43」を褐斑病の多発が懸念される圃場を除いた「リボルタ」に置き替えて普及させることで、てん菜生産と農家所得の安定と向上に寄与できる。

## 3 普及

### (1) 栽培適地

北海道一円

### (2) 普及見込み面積

5,000ha（平成30年作付け総面積57,209haの8.7%）

### (3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及奨励事項

## 4 その他特記事項

(1) 本品種は、そう根病抵抗性が“強”であるが、まれに本品種を含めた抵抗性品種に黄化症状が発生した例があるため、そのような症状が確認された圃場では、てん菜の栽培を控える。

(2) 抽苔耐性が“やや強”であるため、早期播種や過度の低温による馴化处理は避ける。

## 5 参考データ

なし

(写真)

## てんさい「HT43」

(平成30年10月26日撮影 北見農業試験場 直播栽培)

播種日5月7日、畦幅60cm、株間23.8cm



「HT43」



「リボルタ」 (対照品種)



「アマホマレ」 (標準品種)